

令和6年度
シラバス

教科・科目	商業科・ソフトウェア活用	単位数	3
-------	--------------	-----	---

学年・クラス	3 学年（必修・選択）	担当者	保坂剛司
使用教科書	実教出版 ソフトウェア活用		
使用副教材	なし		

目 標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

授業の内容・進め方

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年2回）	◎	○	○
	小テスト（適宜実施）	○	◎	○
	課題提出①（適宜実施）	○	○	◎
	課題提出②（夏季・冬季休業中の課題）	○	◎	○
	授業への参加（通年）	○	○	◎

・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる

B：おおむね満足できる

C：努力を要する

・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価基準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	4	1章 企業活動とソフトウェア 活用 1節 ビジネスにおける ソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフト ウェアの進化	身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。	ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。	ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考え、理解することができたか。	ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持っていたか。
	5	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する	ネットワーク機器の機能的な利用例を理解することができたか。	観光ビジネスとソフトウェアの活用、各種センサーとソフトウェアの関連などに関心を持ち、概要と目的を理解できたか。	
	6	2節 情報資産の保護 3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	コンピュータやプリンタを LAN やインターネットに接続するための基本的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。			
	前期中間考査					
	7	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。
	8	3節 手続きの自動化	マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。			
	9	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用するための知識	データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データ		マクロの記録機能を用いた、手続きの自動化について理解し、主体的かつ協働

			と技術について理解する。	ベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。		的に取り組むことができたか。
前期期末考査						

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	10	3節 手続きの自動化	フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。	ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。	データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し、必要に応じた表の正規化ができる知識や思考が身に付いている。	データベースの仕組みを理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。
	11	4節 データベースの構造 5節 SQL の操作 5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用	データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。 グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	SQLの演習について主体的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。 グループウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	販売管理ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	
	12	3節 給与計算ソフトウェアの活用	給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。			給与計算ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的か

1					つ協働的に取り組む ことができたか。
	後期中間考査				
	6章 情報システムの開発		情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。	一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができるか。	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができるか。
	1節 システム開発の基礎				
2					
	2節 アルゴリズムの基礎		情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。	アルゴリズムを表現するための流れ図について、問題解決のためにその技術を利用することができるか。アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。	
3	3節 情報システムの開発演習		表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携処理を理解し、情報システムに組み込む技術を身に付けているか。	企業活動が抱える課題を現状分析し、表計算ソフトウェア、あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。
	後期期末考査				